

## より多くの宝石を観られる機会を提供

一般社団法人日本宝石協会

理事長 伊藤 彰

新年おめでとうございます。健やかに新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

本年は、天皇譲位と消費税の増税実施と民意と経済に大きく影響を及ぼす出来事が予定されています。春には祝賀ムードで一般消費を押し上げられるか、秋には2%の増税が一般消費を停滞させるのか、皆様には先を見越した営業戦略が必要となります。

昨年9月の香港国際宝飾展には290社の日本企業が出展し、引き続き外需に頼らざる得ない傾向は進んでいますが、米中の経済戦争が景気の先行きを不透明にし、買い控えの傾向が見られました。

昨年の大きなトピックスは、デビアスが立ち上げた合成ダイヤモンドブランドでしょう。天然ダイヤモンドを世界中に供給している一番の会社が、合成ダイヤに市民権を与えて販売展開すると、天然ダイヤの価値を護るためと捉えたいと思いますが、日本の消費者にどのように紹介してゆくのか業界としての指針が必要と思います。

また、中国において大量に生産されインド等で研磨されている合成ダイヤが、天然に混じって製品化されている事例が報告されています。消費者を護り、私たち販売業者を護る上で大切なことは、情報開示しかありません。取り扱い業者の真摯な倫理感を基とした正しい情報の伝達連鎖網を構築することが望まれます。

私ども日本宝石協会は、宝石の正しい知識の普及と情報提供により、宝石の信頼性向上とより良い流通環境の構築に資してゆきたいと活動しています。

11月のシンポジウム『宝石学から考える【宝石の国】の宝石たち』では、日独宝石研究所古屋正貴所長（JGS 監事）がアニメの主人公達希少石について歴史的・宝石学的見地から独創的な解説を展開され、普段見ることのない標本石を観察することが出来、宝石の新しい世界観を感じる事が出来ました。

今年は1月15日大阪シンポジウム『宝石の国の宝石たち』を皮切りに勉強会をスタートします。宝石取引現場の第一線で活躍するJGS会員の協力により提供される標本石を観察出来るJGS勉強会・セミナーは、他に類を見ない貴重な体験学習の機会となっています。

現在、日本宝飾クラフト学院様と共に運営しているGem-A宝石学コースには56名（ファンデーション32名、ディプロマ24名）の受講生が学んでいます。科学的な基礎知識に立脚し、数多くの宝石を観察する経験がより幅のある業界人を育てたいと考えています。本年もJGSの種々の活動にご参加くださることをお待ちしております。